



ER の解説書ではなく ER の格言

評者 今 明秀 八戸市立市民病院院長

山中克郎先生の『医学生からの診断推論—今日もホームランかっとならばそうぞ』(羊土社)、林寛之先生の『Dr. 林の当直裏御法度—ER 問題解決の極上 Tips 90』(三輪書店)など、売れている本は中身が濃くて表紙が派手だ。そういえば、最近の若手医師向けの医学書は、みんな派手な色彩の表紙と売り文句で(すいません、私のもそうです)、それに厚い。しかし本書は、白地に黒の明朝体のタイトル『ER の臨床カルパール』が上品だ。はやりの売れ筋本とは、明らかに体裁が違ふ。サイズは B6 判 200 g と、スクラブポケットに収まるサイズ。行間が広いので、寝転がって読んでもスラスラ読めるし、当直の合間に読破できる。薄いから枕にはならないが、内容は 160 項目と充実している。これは売れるぞ。

おっと、表紙と目次の評価だけなら、Amazon でも事足りますね。では、内容を吟味しましょうか。①収縮期血圧 ≤ 120 mmHg+脳梗塞症状では、「大動脈解離」を検索すること。tPA 投与に向けて慌ただしく動いている時に「人間は急かされると判断ミスをする」。解離には、左片麻痺+右血圧低値が多い。②昏睡状態の患者は、嘔吐で窒息する。自発的側臥位ができないからだ。「例外なく、どのような場合でも気道確保がすべてに優先」は鉄則だ。あとに登場する専門医に気管挿管を弁解する必要はない。③災害現場でリーダーシップを発揮できるのは、混雑した ER で働ける人間である。④週末の午前 2 時に平常心で診療できるようになったら一人前。「あほ・ばか・かす・どけ」が出現した時は、もはやそいつは平常心ではない。細部の確認忘れて失敗する。⑤末梢冷感でショックと考えていた患者が「便意を催したら」「心停止が近い」。⑥室内気で SpO₂ 100%は、よい情報とは限らない。むしろ「呼吸数増加」病態と解釈する。⑦ 40 歳以上で初発なら、過換気症候群ではない。⑧頻拍をみた時、原因なのか結果なのか考える。「心拍数 150/分」が目安で、それ以下では結果が多く、原因を治療する。⑨尿路結石疑いの超音波検査は、先に「腹部大動脈瘤」を、次に「水腎症」を確認する。⑩ 60 歳以上の初発の尿路結石発作疑いで LDH が上昇していたら、「腎梗塞を考慮」して造影 CT を行う。⑪頭部 CT を撮りなくなったら、「血糖値をチェック」する。他に、あと 149 のパールがコンパクトに書かれている。

有名ジャーナルの紹介をしながら解説する書籍はあふれている。本書では、文献は出典名しか記載していない。余分な文字を排除し、「格言」を強調している。だから、薄い本なのに 160 パールも載せられる。

定価 2,800 円で 160 パールだから、10 パールで 175 円だ。ローソンのおでん 2 個とだいたい同じ値段で、10 個の格言が身につく。これはお得。 G

ER の
臨床カルパール

160 の箴言集

岩田充永=著

定価: 本体 2,800 円+税
B6・176 頁/医学書院/2018
[ISBN978-4-260-03678-8]